

# P タメニ Q 構文と P タメニハ Q 構文における

## 動詞のタイプと意味解釈

言語学・応用言語学専門分野

1LT15121G

福井優志

### 1. 問題提起

日本語には、文の前後をつなぐ接続形式としてタメニやタメニハがある。(1)のタメニ節も、(2)のタメニハ節も、どちらも目的を表し、主節には目的に対する行為・手だてが来る。

- (1) a. 部屋をきれいにするために、掃除機を買った。
- b. 全国大会で優勝するために、彼が監督に選ばれた。
  
- (2) a. 部屋をきれいにするためには、掃除機を買う必要がある。
- b. 全国大会で優勝するためには、彼が監督に選ばれるべきだ。

しかし、タメニハの場合、主節を(1)のタメニの例文と同じにすると、文の容認度が下がる。

- (3) a. \*部屋をきれいにするためには、掃除機を買った。
- b. \*全国大会で優勝するためには、彼が監督に選ばれた。

また、(1a)の文では、以下のような例文もあるが、それぞれの文の分析の仕方は異なる。

([]は接続詞タメニが包括する節を表す。)

- (4) a. [皆が気持ちよく過ごせるように部屋をきれいにする]ために、掃除機を買った。
- b. 値段は張るけれど、[部屋をきれいにする]ために、掃除機を買った。

このように、目的という同じ意味を表し、一見似ているタメニとタメニハだが、その用法には違いが見られる。従属節と主節に分けて分析をし、上記の違いを説明する。

## 2. P タメニ Q と P タメニハ Q における従属節 P の分析

P タメニ Q と P タメニハ Q における従属節 P の独立度の分析をした。

### 2.1. 不定詞を含めるか

一般的に、節が不定詞を含むのは A 類、B 類の特徴である。(5)では不定詞を含むことができたが、(6)では不定詞を含むことはできなかった。よってタメニ節は A 類もしくは B 類の性質を持ち、タメニハ節は C 類の性質を持つと言える。

- (5) 何をするために、転職するの？  
(6) \*何をするためには、転職するの？

### 2.2. 疑問の焦点になるか

疑問の焦点は、文末の述語を除いては、「ノ」のスコープ内に含まれる要素である。A 類や B 類を含む節は疑問の焦点になるが、C 類を含む節は疑問の焦点にならず、主節の部分のみを問う疑問文となる。(7)ではタメニ節が疑問の焦点になっているが、(8)では主節の部分のみを問う疑問文となっている。このことより、タメニ節は A 類もしくは B 類の性質を持ち、タメニハ節は C 類の性質を持つと言える。

- (7) --[哲学を学ぶために]、大学に行くのですか。  
--いや、経済を学ぶためです。  
(8) --哲学を学ぶためには、[大学に行く]のですか。  
--いや、大学には行きません。

### 2.3. 同じ階層に属する他の節を含めるか

A、B、C、D 類の下位の節は、上位の類の要素を含むことはできない。(9)のようにタメニ節、タメニハ節ともに、B 類の「ヨウニ」を含むことはできたが、(10)のように C 類の「ケレド」を含むことはできなかった。このことからタメニ節、タメニハ節ともに C 類ではないと言える。

- (9) [母親がしたように、効率的に仕事をする]ために／ためには、時間の使い方を見直す必要がある。  
(10) ??[とても疲れているけれど、効率的に仕事をする]ために／ためには、時間の使い方を見直す必要がある。

### 2.4. 「ダロウ」のようなモダリティを含めるか

「ダロウ」のようなモダリティ形式をとる節は C 類である。下記のように、タメニ、

タメニハともに「ダロウ」を含むことはできなかつた。この点からは、タメニ節、タメニハ節ともにC類ではないと言える。

- (11) \*会議に遅れないだろうために、早めに家を出よう。  
(12) \*道路の混雑を避けるだろうためには、6時頃家を出なさい。

ここまで見てきたように、タメニ節が疑問の焦点になるという点、不定詞を含める点、他のB類を含む点において、PタメニQにおけるPはB類の性質を持つと言える。また、タメニハ節が疑問の焦点にならない点、不定詞を含まない点においてPタメニハQにおけるPはC類の性質を持つと言える。(4)で解釈の相違が起きるのも、タメニ節がB類であるからだ。タメニは、下位の層であるA類の「ヨウニ」は含めたが、上位の層であるC類の「ケレド」は含むことができないのである。

### 3. PタメニQとPタメニハQにおける主節Qの分析

PタメニQ構文とPタメニハQ構文の主節Qの述語が動詞、形容詞、形容動詞の場合の3つに分けて分析をし、容認度を比較した。

#### 3.1. 動詞

PタメニQ構文、PタメニハQ構文の両方で容認性が高かったのは、主節の述語が「状態動詞」のとき、「意図・願望・当為評価・有益」を表す動詞のときであった。

- (13) 状態動詞 (タメニ)  
a. 生徒を育てるために、教師がいる。(存在)  
b. 明日遅刻しないために、早く寝る必要がある。(必要)
- (14) 状態動詞 (タメニハ)  
a. 生徒を育てるためには、教師がいる。(存在)  
b. 明日遅刻しないためには、早く寝る必要がある。(必要)
- (15) 「意図・願望・当為評価・有益」を表す動詞 (タメニ)  
a. 鑑賞するために、この刀を買う。(意図)  
b. 鑑賞するために、この刀を買おう。(願望)  
c. 鑑賞するために、この刀を買うべきだ。(当為評価)  
d. 鑑賞するために、この刀は役に立つ。(有益)

- (16) 「意図・願望・当為評価・有益」を表す動詞（タメニハ）
- 鑑賞するためには、この刀を買う。（意図）
  - 鑑賞するためには、この刀を買おう。（願望）
  - 鑑賞するためには、この刀を買うべきだ。（当為評価）
  - 鑑賞するためには、この刀は役に立つ。（有益）

反対に、P タメニハ Q 構文で容認度が下がる例は、主節の述語が「テイル形で状態を表す動詞」「継続を表す動詞」「動作の完了を表す動詞」のときだ。

(17) テイル形で状態を表す動詞

- \*子供たちを安心させるためには、部屋に明かりがついている。
- \*200 キロカロリー消費するためには、ぼくはもう十分走っている。

(18) 継続を表す動詞

- \*愛とは何かを知るためには、今この本を読んでいる。
- \*200 キロカロリー消費するためには、今走っている。

(19) 動作の完了を表す動詞

- \*愛とは何かを知るためには、この本を読んだ。
- \*200 キロカロリー消費するためには、走った。

容認度の高い例の共通点として挙げられるのは、P タメニハという主題に対し、主節 Q でさまざまな選択肢の中からある1つを選び、候補として述べているもので、まだ実践していない状態であるということだ。それに対し、容認度の低い例ではP タメニハという主題に対しての解決法や対策を、主節 Q で既にし終えている、もしくは現在進行形で実践中である表現の場合であった。

### 3.2. 形容詞

主節が「多い／少ない」のように二項対立の様相を呈しているとき、P タメニ Q 構文ではP タメニという目的に対し、主節には「望ましい」意味の表現が来、P タメニハ Q 構文ではP タメニハという目的に対して、主節には「望ましくない」意味の表現が来る。これは、P タメニハという表現が、意味的に主節にさまざまな選択肢・行為の存在を要求する用法だからだと考えられる。「望ましくない」意味の表現の方が、その他の代替りの選択肢を自然と想起しやすいのだ。

- (20) a. 将来外車を購入するために、彼の貯金は多い。

b. 将来外車を購入するためには、彼の貯金は少ない。

(21) a. \*将来外車を購入するために、彼の貯金は少ない。

b. \*将来外車を購入するためには、彼の貯金は多い。

主節が二項対立を示さないような、その他の形容詞の場合は、タメニ・タメニハともに容認度は高い。

(22) a. 一年間の計画を立てるために、元旦は都合がいい。

b. 彼に感謝の意を伝えるために、対面のほうが気持ちがいい。

(23) a. 一年間の計画を立てるためには、元旦が都合がいい。

b. 彼に感謝の意を伝えるためには、対面のほうが気持ちがいい。

### 3.3. 形容動詞

主節の述語が形容動詞のときは、タメニ・タメニハともに容認度は高かった。

(24) a. 魚を捌くために、出刃包丁は便利だ。

b. 国を変えるために、彼は適任だ。

(25) a. 魚を捌くためには、出刃包丁が便利だ。

b. 国を変えるためには、彼が適任だ。

## 4. まとめ

従属節については、節の独立度を測りその特徴を示した。P タメニ Q の文の従属節は B 類の性質を持ち、P タメニハ Q の文の従属節は C 類の性質を持つ。独立度としてはタメニよりもタメニハの方が高いことがわかった。

主節については、主節の述語が動詞、形容詞、形容動詞の 3 つの場合に分けてその用法を研究した。その結果、P タメニハ Q の文では、P タメニハという主題に対して、主節 Q は、さまざまな選択肢の中からある一つを選択したもの、という関係性にあることがわかった。主節には、その他にもさまざまな選択肢を持つ表現、別の選択肢を想起させるような表現が来る。